

第 117 回 ナポレオンの時代

1 ナポレオンの皇帝即位とナポレオン戦争

- ・1804 年、ナポレオンは、国民投票により皇帝ナポレオン 1 世となった。
※この政治体制を（ ）という。
→それに対しヨーロッパ諸国は、翌年（ ）を結成した。



皇帝ナポレオン1世

☆第一帝政（ナポレオン帝国）（1804 年 5 月～1814 年 4 月）

- ・1805 年、ナポレオンはイギリス征服を考えるが、（ ）で、
（ ）提督ひきいるイギリス海軍に敗れた。
- ・しかし同年、（ ）でオーストリアとロシア
の連合軍を破り、第 3 回対仏大同盟を解消させた。



ベートーヴェン
皇帝即位を知ったベ
ートーヴェンは、「ボナパ
ルト」という楽譜の表紙
を、ぐしゃぐしゃにした。



ネルソン提督
伝説的な名将であるネルソン提督は、右
目と右腕を失っていた。ロンドンのトラファ
ルガー広場には、現在も柱の上にネルソ
ン提督の像が建っている。



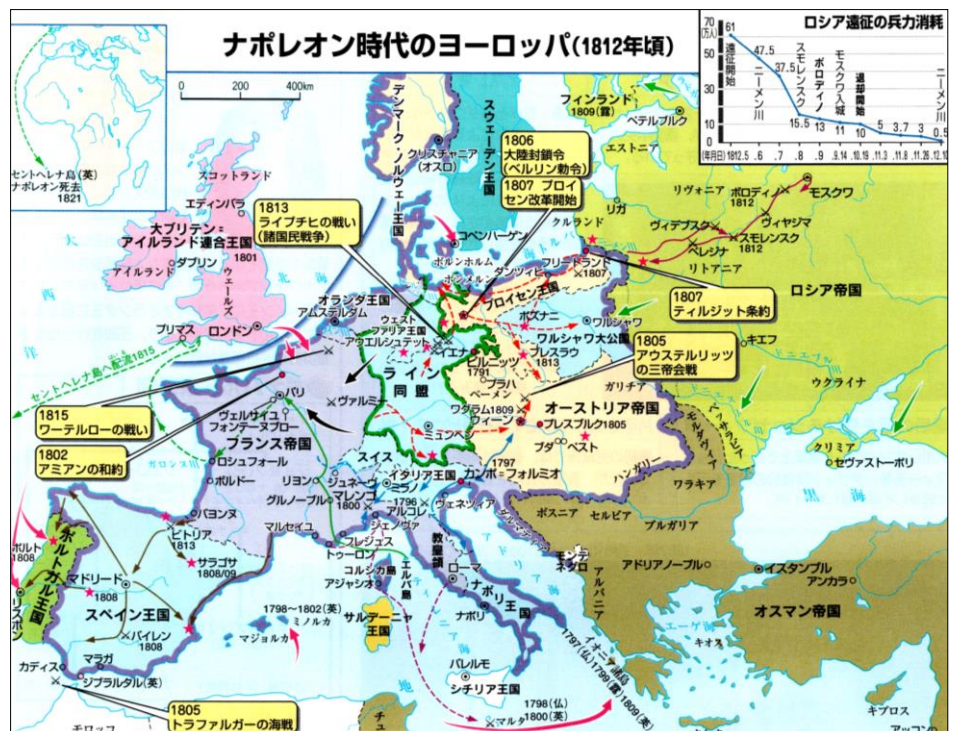
ナポレオン1世
フランツ2世 アレクサンドル1世
アウステルリッツの三帝会戦は、文字どおり3人の皇
帝が戦ったために、こう呼ばれる。天才ナポレオンに
よる見事な指揮は、芸術の域に達しているとされた。



- ・1806 年 7 月、西南のドイツ諸侯に、（ ）を結成させた。
→名前だけ残っていた（ ）が正式に決まった。
- ・1806 年 10 月、イエナの戦いでプロイセン軍にも大勝した。
→1807 年、（ ）を結び、ヨーロッパのほとんどを支配した。
→この条約により、ポーランドに（ ）を設立させた。



ダヴィッド作「ナポレオンの戴冠式(部分)」
ナポレオンは、ローマ教皇からではなく、自らの手
で冠を頂いた。その後、妻のジョゼフィーヌにも冠を
さずけた。この絵はほぼ実物大に描かれている。
なおナポレオンは、1809 年にジョゼフィーヌと離婚
し、翌年オーストリア皇帝の娘であるマリー＝ルイ
ズと政略結婚した。



2 ナポレオンの支配に対する反発

- ・ナポレオンは、ヨーロッパ各地に属国をつくり、兄弟などを国王として置いた。
- ・フランス革命の自由、平等という理念に支えられたナポレオン軍は、最初各地で絶対王政からの解放者として歓迎された。
→フランス革命の動力源である（ ）が、各地に浸透していった。
→人々は、外国人であるナポレオンの支配に疑問を感じるようになった。

<プロイセン>

- ・ティルジット条約により、プロイセンは賠償金を課せられ多くの領土を失った。
→（ ）、つづいて（ ）が、都市の自治、農民解放（農奴制の廃止や職業選択の自由）、軍制改革などさまざまな改革を行った。
- ・（ ）は、「 」という講演でドイツ人の愛国心を高めた。



シュタイン

プロイセン王国の首相を務め、農奴解放や、軍制改革などを行ったが、ナポレオンににらまれて失脚した。



ハルデンベルク

シュタインの後、プロイセン王国の首相となった。この二人の改革により、プロイセン軍も、国民軍となっていた。



フヒテ

哲学者で、ヘーゲルなどと並んで、ドイツ観念論を代表する人物である。ベルリン大学の初代総長でもある。

<スペイン>

- ・スペインでは、ブルボン朝の王が追放されたあと、ナポレオンの兄ジョゼフが国王についていた。
→1808年以降、フランスに対する反乱が続発した。

- ・スペイン人は、強力なフランス軍に対し、各地で小規模な抵抗を続けた。
- ・またスペイン人画家の（ ）は、強大なフランスに抵抗する民衆を題材にした絵画を多く描いた。



ゴヤ(弟子)作「巨人」

ゴヤは、スペインの民衆を巨人に例え、ナポレオンの侵略に対して立ち上がる姿を描いたとされる。ただし最近になって、ゴヤ本人ではなく弟子の作品だとわかった。



ゴヤ作「マドリッド、1808年5月3日」

ゲリラ戦を展開するスペインの民衆に対して、ナポレオンは熾烈な報復を行った。手を広げる男は、十字架のイエスを模していると言われる。ゴヤを見るなら、スペインのプラド美術館に行くしかない。大学生になったら行きましょう。

<ロシア>

- ・1806年、ナポレオンは、抵抗するイギリスを孤立させ、フランスによる大陸市場の独占を目指して、（ ）をベルリンで発した。
→ヨーロッパ大陸とイギリスとの貿易や交通を全面禁止した。
→小麦などの穀物をイギリスに売っていたロシアは、非常に困った。